

2018年1月19日

マツダ、タイのパワートレイン工場にエンジン機械加工工場を開所

— タイにおけるエンジン生産の能力は年間10万基へ —

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、タイ王国チョンブリ県にあるパワートレイン生産拠点「マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド) Co., Ltd.」(以下、MPMT)のエンジン機械加工工場が開所したことを、本日発表しました。本日、MPMTが主催した開所記念式が行われ、マツダの小飼雅道(こがい まさみち)代表取締役社長兼CEOなどが出席しました。

開所にあたって、マツダの小飼社長は「MPMTのエンジン機械加工工場の開所、おめでとうございます。政府やお取引先などのご関係者様におかれましては、多大な支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。MPMTはマツダがタイで一貫したクルマ造りを実現するために欠かせない重要な生産拠点です。自動車の基幹部品であるエンジンの生産体制が一層強化されたことは、マツダ車をお客様によりタイムリーにお届けすることを意味します。今後も、高品質なクルマ造りに努め、お客様の日常をさらに彩るマツダ車をお届けしていくとともに、自動車産業の発展に貢献できるよう、全力を尽くしてまいります」と祝辞を述べました。

MPMTの向田 光伸(むかいだ みつのぶ)社長兼CEOは「この度、エンジン機械加工工場の開所を迎えたことを大変嬉しく思います。MPMTが設立から今日に至るまで着実に歩みを進めてこられたのは、多くの方のお力添えによるものであり、深く御礼申し上げます。お取引先様とともに造りあげたMPMT製のエンジンを搭載したマツダ車が、お客様にとってかけがえのない存在になることを願っています。これからも、地域に根ざした高品質なクルマ造りと将来の自動車産業をけん引する人財の育成などに取り組み、この地のモノづくりの成長に貢献してまいります」と語りました。



MPMT エンジン工場 エントランス 外観

マツダは、タイにおける車両・エンジン・トランスミッションの一貫した現地生産体制のさらなる拡充を図るべく、新たに221億円を投じて、エンジン機械加工工場の新設とエンジン組立工場における生産ラインの能力増強などを実施し、MPMTにおけるエンジンの年間生産能力を3万基から10万基に拡大します。また今後、ガソリンエンジン「SKYACTIV-G 2.0」の量産を開始するとともに、同エンジンを従来の出荷先であるタイに加え、マレーシアとベトナムにあるマツダ車生産拠点に輸出する計画です。

今後もマツダは、「地球」、「社会」、「人」とクルマが共存する世界の実現を目指し、「走る歓び」にあふれたカーライフを通じて、お客様の人生をより豊かにし、お客様との間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

以上

■MPMT 沿革

- 2013年 2月 設立
- 2015年 1月 「SKYACTIV-Drive」の量産を開始
- 10月 「SKYACTIV-D 1.5」の量産を開始
- 2016年 1月 「SKYACTIV-G 1.3」の量産を開始
- 2018年 1月 エンジン機械加工工場の新設やエンジン組立工場におけるラインの能力増強などにより、エンジン生産能力を年間10万基に拡大